

# カメラ レポート



◀海岸愛護月間の7月7日、南国市海岸一帯で海岸一斉清掃が行われました。建設省・県・市・南国市海岸地域美化推進協議会などの主催。

当日は、早朝からの激しい雨の中、「うるおいのある海岸環境を守ろう」と数多くの市民が参加。南国ライオンズクラブや市商工会青年部の参加もあり、予定よりも早く作業が終わりました。

この後、子どもたちによるうなぎのつかみ捕りや、海岸愛護争奪杯綱引き大会も行われ、参加者らは雨に打たれながらも楽しい一時を過ごしました。

また、この日は物部川でも一斉清掃が行われ、参加した市民ら約40人がゴミや空き缶を拾い集めました。



◀6月26日、大湊保育所でプール開きが行われました。この日はあいにくとどんよとした空模様でしたが、今年初めての水遊びとあって園児たちは大はしゃぎ。「水の事故がないように」とショウブで作ったほこらにお参りすると、どこからともなくエンコウさんがやってきて、お土産に大きなスイカをプレゼント。



▲5月23日、高知高専体育館を会場にアイケン杯争奪卓球大会が開かれました。

参加した12団体・17チーム、117人の選手は、日ごろの練習の成果を發揮しつつも、和気あいのゲームを展開しました。

なお、団体戦優勝チームは次のとおりです。

一般＝南国市卓球連盟、高校＝高知工工業A、中学校男子＝北陸中学校A、中学校女子＝香長中学校A

▶7月4日、市のHOPE計画推進に呼応して、住まいづくりを積極的に進めている「住まいの研究会」と「ホープ住宅研究会」は、県文化環境アドバイザーの福岡晴文さんを講師に迎え、近自然河川工法の講演会を開きました。「まちと水辺に豊かな自然を」テーマに、近自然河川工法をスライドで紹介しながらの講演に、約100人参加者は熱心に聞き入っていました。



▼7月13日、市役所大会議室を会場に、インドネシア文化を学び交流しようと、第4回国際交流講座が開かれ、市民ら約50人が参加しました。市とボランティアグループ「あかつき会」の主催。

講座はまず、ニッピンド高知駐留閣の上久保順一郎さんとユネスコ事務局長顧問の服部英二さんがインドネシアとの関わりについて語り、続いて、高知大農学部留学生のトニ・ルチマトさんとエスチュウ・ヌグロホさんがビデオを使ってインドネシアを紹介したり、インドネシア語を指導した後、質問形式のフリートークを行いました。



▲6月26日、南国市葉たばこ振興協議会は、葉たばこの作柄品評会を開きました。

品評会は収穫前の作柄状況などを競うもので、日本たばこの技術職員ら4人が審査員となり、市内7支部から選抜された21か所の栽培畑を見て回りました。

審査員らは葉たばこの樹型、成熟状況など5項目にわたり、綿密にチェック。ことしは4月の低温の影響が心配されましたが、平年以上の作柄とすることで、審査にも熱がこもっていました。



◀稲吉神社で6月30日、市消防署より稲吉自警団に可搬式動力ポンプ(2基)が引き渡されました。

これは「財団法人自治総合センター」平成8年度コミュニティ助成事業の採択を受けたもの。この小型ポンプ「ラビットP380L」は、15馬力・C1級で、従来のポンプよりも軽く、たいへん使いやすいポンプです。

この日は稲吉自警団のほか関係者約30人が出席し安全祈願祭が行われ、本番さながらの試運転を行いました。



▲県民交通安全の日の6月20日、浜田市長らが交通安全の市内一円パトロールを行いました。毎月、交通安全所では交通安全指導員や交通安全協会・南国署員などが街頭指導をしていますが、事故の多い所を実際にもう一度確認しようといわれたもの。

特に事故の発生しやすい雨のこの日、交通安全日草地区母の会員らが広報車に乗り込み「飲酒運転の追放やシートベルト着用の徹底、高齢者の事故防止」などを呼び掛けました。



▲7月14日、長岡東部公民館で「市長を囲む会」が開かれました。「市長と仲良くなろうという会です」と、ユーモラスに館長の笠原さんがあいさつした後、市長による市政報告。その後、質疑応答と暑い中、熱心な討論がされました。市長も「市民の声を大切にしたい」と汗だくで答弁しました。

▶「ふれあいと対話が築く明るい社会」をスローガンに、社会を明るくする運動が7月全国一斉に行われました。今年が46回目。

南国市では1日、同運動の実施委員会が街頭キャンペーンを実施、犯罪や非行のない社会づくりを呼び掛けました。また、18日には市役所一階ロビーで、受刑者が製作した家具・靴・小物入れなどの展示販売会が行われました。



▶6月30日、市民体育館で第24回教育長杯バレーボール大会が行われました。

「肩肘張らずに楽しくプレーしましょう」と、西森教育長があいさつ。参加した9チームは、和気あいに白いボールを追い掛けました。

なお「消防&保母さんチーム」が、栄冠に輝きました。



◀7月6日、十市の石上神社で家内安全や五穀豊穡などを祈願する恒例の大護摩(おおごま)供養祈願祭が催され、市内外から大勢の信者らが集まりました。

境内中央の護摩壇に火が付けられ、願い事を書いた護摩札と山伏姿の行者が火の中へ、火が燃え尽きるといよいよ火渡りの儀式が、端にはヒノキの葉を敷いてありますが、所々には残り火がのぞかれます。儀式はまず、山伏姿の先達が渡り始め、続いて信者らが願い事を唱えながら次々と渡りました。